関東蒲生会26年度　かわら版

発行：平成26年8月20日

関東蒲生会26年度(本年は姶良市ふるさと会)に寄せて

関東蒲生会会長　小倉　收

関東蒲生会会員の皆々様、ご健勝にてお過ごしの事とお慶び申し上げます。

私は昨年の総会で、長い歴史と伝統に包まれた関東蒲生会の会長と言う重責に就任し、その責任の重さに押し潰されそうですが、その責任を全うできるように頑張る所存ですので、宜しくお願い致します。

私は今年70歳の大台に成りましたが、今までの人生を振り返ると、なんとも多くの無駄な時間や無駄遣い、無駄な事柄の繰り返しではなかったのか?と、また、最近、無駄ゼロ、なんて政治家の看板もよく目に留まりますが、果たしてどうなのか？いささか疑問に思っている昨今であります。

経済学では、有効需要とか、限界効用逓減の法則などと、難しく感じる用語がありますが、私は、無駄という用語は、決して否定的なことではなくて、むしろ肯定的な意味で、効用の部分が大きいと思っております。
効用とは、財の消費によって欲望が満たされる度合いのことであり、効能や効き目のことで、無駄の効用とは、無駄の効能・効力や効き目のことであります。

「無駄の効用」なる用語は、今まであまり見聞したことはありませんが、私は、無駄は、人間にとって大変重要な部分であると思っております。
例えば、無駄遣いをしないとお金の有難さが理解できないし、経済学や私たちの日常生活においても、無駄であると思われることが、実は、非常に重要であることが多く存在しますし、思わぬ好結果もたらすこともあります。教育においても、無駄と思われることやむしろ雑談の中から学ぶことが実に多いものです。

私は、多くの学生と接していますが、中には、留年したり、退学しようかどうか迷って、研究室に相談に来る学生が少なくありません。
そのような学生に対して、私は、過去のことについて、あれやこれやと考えたり悩んだりないで…と言い、無駄の効用ということを信じているので、君の過去を無駄にしないで、今からでも頑張れば、君の過去は生きてくるし、救われるではないか、と諭しています。

また私は、家庭菜園を始めて約40年に成りますが、当初の頃、大根を植えた時の事で、7月の末に植えた大根に、暑さが厳しいので、朝に夕方にジョロで水を与えていました。

8月中旬に成ると益々日照りが強く、夕方に行くと、大根はぐったりとしおれかかっているので、水をたっぷり与えました。すると翌朝は　元気そのもので…、しかし、夕方は前日同様にぐったり…また水をたっぷり…の連日でした。暫くすると、なんと大根の根元の土が盛り上がって着ました。
不思議に思って大根の根元を探ってみると、なんと、タコの足のように一本の大根が土の表面で5～6本に成って育っていました。
私が朝夕水をあげるので、大根は、私の水を吸収して、５～６本に成っていることに気付きました。
そう言えば、数人の人から、無駄なことは止めたら…なんて言われたり、隣の人の畑の大根は、全てではないが自分で水を吸収して、直根の見事な大根が出来ているのです。

私は、相当な無駄をしたかも知れませんが、人間教育と同様に、過保護がどのような結果をもたらすかについて学ぶことが出来たことは、まさに「無駄の効用」と言うか、大変な収穫でありました。
以上、関東蒲生会関係者の皆々様に対しまして、私の拙い経験や体験の中から、考えの一端について、思うままに書き連ねさせて頂きました。

さて、今年の総会・懇親会はご案内の通り、10月12日(日曜日)です。多数の方々に参加いただき、ふるさとの絆を盛り上げたく期待いたしております。お誘い併せのうえ是非ご参加頂きます様お待ちいたしております。

平成25年度活動報告

関東蒲生会幹事長　山下　憲男

1.平成25年度の報告
　25年度の関東蒲生会は多数の来賓をお迎えして盛大に開催されました。
　第53回関東蒲生会総会・懇親会　　日時：平成25年10月20日　12：00～16：30　　場所：三州倶楽部

2.姶良ふるさと会(平成26年5月18日)　13:00～16:00 おはら祭り　渋谷道玄坂
　　16:30～　　合同懇親会　三州倶楽部(蒲生会18名)

3.第一回総会準備（平成26年7月5日）
　総会開催のための企画、準備日程の確認、桜基金の継続、関東蒲生会会員名簿の発行ならびに
　これらの費用にあてる関東蒲生会運営寄付金の募集、かわら版の発行などの決定を行う。

4.第二回総会準備会（平成26年8月9日）予定
　総会案内の準備と総会・懇親会案案内状の発送
　同封資料：案内状、かわら版、寄付金振込用紙、返信用ハガキなど約400通の案内発送作業。

5. 姶良ふるさと会　26年度総会懇親会10月12日(日)　12:30(受付)～東海大学交友会館　霞が関ビル35階13:00～

＜関東蒲生会運営寄付金のお願い＞

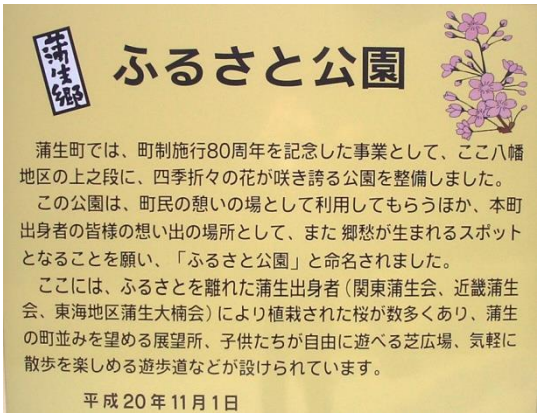
　ご承知のように関東蒲生会は年一回の総会・懇親会で会員相互の親睦と町との交流を主な役割としてまいりました。引き続き今後の運営も総会での決議に基づき続けてまいる所存でございます。
　一方、今回の総会・懇親会のご案内も含めた、通信費、印刷費、会議室使用料など1年間の維持運営を総会参加者の会費の中から捻出し、不足分は有志の寄付と幹事一同のボランティアで賄っているのが実情でございます。
　引き続き、関東蒲生会の会員の方々から広く運営寄付金の募金を募っております。関東蒲生会の有志の方々に寄付を賜りますようお願い申し上げます。（振込用紙を同封してあります）

退任のご挨拶

　関東蒲生会の会員の皆々様、ご健勝のこととお慶び申し上げます。この度、長年お世話になりました会長職を退任させて頂きました。皆様方のご協力とご支援により「桜基金」により町内八ヶ所に「桜公園」が完成して「関東蒲生会桜基金」の標識が残されました。

　また、平成23年には設立50周年記念大会が盛大に挙行されましたことなど思い出深い十年となりました。
　今後は小倉新会長を支えて頂き関東蒲生会として益々発展されますことを祈念いたします。

関東蒲生会名誉会長　満田泰啓


ふるさと公園

蒲生町では、町制施行80周年を記念した事業として、ここ八幡地区の上之段に、四季折々の花が咲き誇る公園を整備しました。
この公園は、町民の憩いの場として利用してもらうほか、本町出身者の皆様の想い出の場所として、また 郷愁が生まれるスポットとなることを願い、「ふるさと公園」と命名されました。
ここには、ふるさとを離れた蒲生出身者（関東蒲生会、近畿蒲生会、東海地区蒲生大楠会）により植栽された桜が数多くあり、蒲生の町並みを望める展望所、子供たちが自由に遊べる芝広場、気軽に散歩を楽しめる遊歩道などが設けられています。

平成20年11月1日

第16回渋谷・鹿児島おはら祭に初参加

関東蒲生会副会長　久冨木　文子

「関東姶良市おどり連」天文館でも初踊り

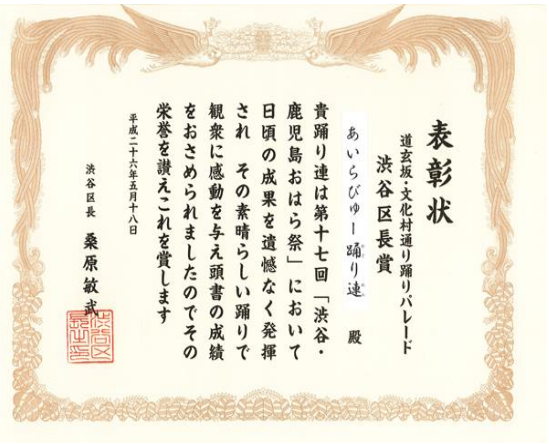
昨年5月の第16回渋谷・鹿児島おはら祭り初参加に続き、関東姶良町会柳迫会長の「姶良市への倍返しに11月は天文館で踊りましょう」の掛け声で、関東蒲生会、関東姶良町会の乗りの良い勇士達は、2013年11月3日第62回おはら祭りに初参加して故郷に錦を飾っちゃいました？！

笹山姶良市長と姶良市のユルキャラ「楠みん」を先頭に、鹿児島市役所前から天文館通りを埋め尽くした大勢の鹿児島県民や観光客の声援を受けながら、「燃えて上がるはオハラハア桜島、ヨイヨイよいやさ♪」の大行進を楽しみました。

2014．5．18　第17回渋谷・鹿児島おはら祭り渋谷区長賞

今年の関東姶良市おどり連には、東京加治木会の有志11名も加わり、姶良、加治木、蒲生から29名、故郷姶良市からあいらビュー踊り連24名の合同参加で、おはら節、渋谷音頭、ハンヤ節、TOKYOオハラの4曲に列を揃えて、心を合わせて踊りました。

5/18日晴天の渋谷道玄坂・文化村通りの踊りパレードでは、若草色の揃いのハッピに身を包み、笹山市長が先陣を切り「♪踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにゃソンソン♪」と、楽しく踊りきることが出来ました。晴天の霹靂はその後の表彰式にあり！



表彰状

道玄坂・文化村通り踊りパレード
渋谷区長賞

あいらびゅー踊り連　殿

貴踊り連は第十七回「渋谷・鹿児島おはら祭」において日頃の成果を遺憾なく発揮され　その素晴らしい踊りで観衆に感動を与え頭書の成績をおさめられましたのでその栄誉を讃えこれを賞します

平成二十六年五月十八日

渋谷区長　桑原敏武

関東連、鹿児島連合わせて64連の参加連、その中で何と3番目に当たる「渋谷区長賞」を頂き、懇親会も大いに盛り上りました。沢山の皆さんにご協力、ご声援を頂き、ありがとうございました。

来年こそは、皆さんも是非「踊る阿呆」にないもんソ。

太鼓踊り（てこおどい）

関東蒲生会副会長　井之上 政勝

田舎にいたころよくこの太鼓踊りを見に行きました。太鼓踊りのキャキャン・ズイ（鉦と太鼓の音）のメロディ・テンポは何とも言えない響きで今でも脳裏にくっきり浮かんでくる。

この太鼓踊りは今でも毎年八月二十一日に決まって催されているようです。特に圧巻は神社への奉納の最初に三人の太鼓叩きだけの踊りがあるが各地区の競い合いもあってか跳ねも一段と高々で勇壮である。

島津義弘は、太鼓踊りは流行病を鎮める効験があり、踊りの勇壮さが士気を鼓舞するのに適切であるとして、征韓の凱旋踊りにしたいと考えていたようである。慶長十三年（一六〇八）に加治木館の東北大樹寺で踊らせたのが最初といわれる。やがて隣村の我が蒲生にも伝えられてきたものとされる。明治初年来、蒲生にあっては、郷内八ヶ村で太鼓踊りが行われ、旧暦七月二十一日（現八月二十一日）に蒲生八幡神社へ奉納されていた。

現在蒲生町では北地区、と私が育った下久徳地区、それに川東地区の三地区において太鼓踊り保存会を設け、その継承活動に努めている。

また昭和六十三年七月十八日には、当時の浩宮殿下（現皇太子殿下）が御来蒲生の折り、蒲生町役場にて三地区保存会合同の太鼓踊りを御覧に供したということを聞いている。

蒲生町内三地区保存会の太鼓踊りの構成と扮装の仕様には若干の違いがあるが、主に次のようである。

【ホタ振り】

総指揮者である。浴衣に角帯と脚絆を付け、黒足袋にワラジを履く。右手に扇子、左手に采配を持つ。この扇子と采配の先に鉦や太鼓の音を引きつけながら踊りに調和を保つため、鉦や太鼓には練達の者があたる。

【鉦打ち】

四人が決まりであるが、五～六人の場合もある。陣羽織・陣笠・太刀一本・印籠を付け、脚絆、・黒足袋にワラジを履く。左手に鉦、右手に撞木を持つ。

【太鼓打ち】

二十数人の踊り手が、月の輪の付いた兜を冠り、毛頭（白馬の鬣）を付ける。矢旗を背負い、白襦絆に脚絆をあてる。現在は白足袋を履くが、古くは裸足であった。胸に太鼓を抱え、長い太刀一本を締める。

踊り方には「ミッデコ」「アンネデコ」「ニワオドィ」などがある。

この太鼓踊りは、ユウチューブの「蒲生の太鼓踊り」で検索すると簡単に見ることができます。今は三地区でそれぞれ保存会を設けて継承に努めており、私の同級生のT君も中学生まで踊った経験を生かし都庁の職員を定年で辞めて帰郷した後保存会の役員となり活躍し、太鼓踊りを支えている。田舎に残る若手がすくなくなり、踊り手を確保することが悩みのようであるが是非この伝統文化を継承して欲しい。

関東蒲生会のホームページをご覧下さい。

全国の各地にお住まいの蒲生出身者、蒲生に縁の方々も自由に閲覧・投稿できます。このホームページには総会・懇親会時の写真やその他にも色々と投稿されております。

ホームページ
http://www.kamoukai.com
メールアドレス
office@kamoukai.com